

### 創世記 49: 8-12

49:8 ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ、あなたの手は敵のうなじの上であり、あなたの父の子らはあなたを伏し拝む。

49:9 ユダは獅子の子。わが子よ。あなたは獲物によって成長する。雄獅子のように、また雌獅子のように、彼はうずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こすことができようか。

49:10 王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。

49:11 彼はそのろばをぶどうの木につなぎ、その雌ろばの子を、良いぶどうの木につなぐ。彼はその着物を、ぶどう酒で洗い、その衣をぶどうの血で洗う。

49:12 その目はぶどう酒によって曇り、その歯は乳によって白い。

### イザヤ書 7: 13-14

7:13 そこでイザヤは言った。「さあ、聞け。ダビデの家よ。あなたがたは、人々を煩わすのは小さなこととし、私の神までも煩わすのか。

7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

### イザヤ書 9: 6-7

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。

### ミカ書 5: 1-5.

5:1 今、軍隊の娘よ。勢ぞろいせよ。とりでが私たちに対して設けられ、彼らは、イスラエルのさばきつかさの頬を杖で打つ。

5:2 ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。

5:3 それゆえ、産婦が子を産む時まで、彼らはそのままにしておかれる。彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰るようになる。

5:4 彼は立って、【主】の力と、彼の神、【主】の御名の威光によって群れを飼い、彼らは安らかに住まう。今や、彼の威力が地の果てまで及ぶからだ。

5:5 平和は次のようにして来る。アッシリヤが私たちの国に来て、私たちの宮殿を踏みにじるとき、私たちはこれに対して七人の牧者と八人の指導者を立てる。

### はじめに

今年のクリスマスは、クリスマスについてのメッセージを 3 回する予定です。

初回の今日は、クリスマスにかかわる預言についてお話しします。

来週 23 日には、クリスマスの目的についてお話しします。

そして 24 日（月）のクリスマスイブ礼拝では、最初のクリスマスの目撃者について学びます。その際は、グループによる寸劇と、教会員の証もお分かちします。

今日は、クリスマスにかかわる預言に注目します。

旧約聖書の預言は、神が将来なさることについての宣言です。

神のご計画を人々に述べるように選ばれた預言者たちは、神が将来どのようなことをしようとしておられるのか、すべてを把握していたわけではないでしょう。

それぞれの預言は、イスラエルの歴史上の出来事と関連付けられており、容易に理解できるものではありませんでした。預言者自身にとってもそうです。旧約聖書には、イエスの降誕に関する預言がたくさんありますが、今日は時間の関係で、そのいくつかを学びましょう。

## 1. イエスの降誕が歴史上のいつの時点で起こるかに関する預言（創世記 49 : 10）

ここに記されたヤコブの最期の言葉は、イスラエルの未来について人間が語った初めての預言です。これは、イエスがお生まれになる約 1,600 年前に語られました。この個所をまず理解する必要があります。

### **創世記 49: 10.**

49:10 王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。

ここでいくつか説明しておきましょう。

「王権」は、王位と権威を指します。

この預言は、イスラエルの統治者は常にユダ族から出るというものです。統治者の杖とは、王が自らの王位を証明するために使った杖のことです。

「シロ」というのは、メシヤの呼称です。

つまり、この預言が語っているのは、ユダヤのメシヤ（救い主）が来られるまでは、イスラエルは常に自分たちの統治者による自治権を持つということです。

この時代から後に続くイスラエルの歴史は、旧約聖書をたどれば簡単にわかります。

また、ユダヤの歴史書は、旧約聖書が完結した後の時代について教えてくれます。

イエスがお生まれになった当時、ローマ帝国がユダヤの統治権を握っていました。

ユダヤ人は、宗教法廷をとおしていくらかの自治権をもってはいましたが、ローマ帝国がユダヤ人を統治しており、ユダヤ人はローマ帝国の法律に従わなければなりません。

デービッド・グジックの書いた注解書によると、ローマ帝国がイスラエルの統治権を奪ったとき、ユダヤ教指導者たちは途方に暮れた、と歴史の記録からわかるといます。ユダヤ教指導者たちは、神のみことばに裏切られたと思ったのです。

彼らは、みことばを知り尽くし、信じていました。そして、メシヤが来るまではユダヤ人の統治者または王が常にいるものと考えていました。

しかし、ユダヤ教指導者たちは、神の御子イエスのご降誕というかたちでメシヤが来られたことを悟っていませんでした。

歴史上のちょうどよいタイミングでユダヤ人のメシヤであるイエスがお生まれになったことにより、この預言は正確に成就したと、私たちは知っています。

イエスのお生まれになった正確な日時を知ることはできませんが、ヤコブが 1,600 年も前にそうなるかと告げたタイミングでお生まれになったことはわかっています。

これは、なんともすばらしいことです。

聖書の神は、1,600 年もの世界の歴史を経て、お働きになることができるお方です。その間ずっと、イエス・キリストがお生まれになるまでは、ユダヤ人を納める指導者は常にユダ族から出るようになさっていたのです。

イエス・キリストは、神の時にこの世に来てくださいました。そこには多くの理由がありますが、そのひとつは、預言が成就するためです。

## 2. イエスの降誕の性質に関する預言（イザヤ書 7 : 13-14）

神は、ユダの王アハズを励ますために語られました。これは、アラムに攻め入られてアハズ王が動揺した時のことです。

神は、使いを遣わして、神からのしるしを求めするようにアハズ王に伝えます。彼が守られることを示すしるしです。そして、どれほどむずかしいしるしでもよいと言われます。

（イザヤ書 7 : 10-11）

しかしアハズ王は、「私は求めません。【主】を試みません。」と言って、神にしろしを求めたことを拒みました。  
すると神ご自身が、「わたしがしろしを与える」とおっしゃったのです。  
神のしろしは、「処女がみごもって子を産む」という内容でした。

### **イザヤ書 7 : 14**

7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしろしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

この預言は、処女の女性が子を産み、その子を「インマヌエル」と名付けるというものでした。「インマヌエル」とは、「神がともにおられる」という意味です。

この預言は、イエスがお生まれになる約 800 年前に語られました。

処女が子を産むという部分が、クリスマスのお話に不可欠です。

なぜイエス・キリストは、奇跡によって処女から生まれなくてはならなかったのでしょうか。男性を介した普通の方法ではなぜだめなのでしょう。

簡単に答えると、この世に生まれた人はすべて、罪の性質を持って生まれていて、神のさばきを受けることになっているからです。

これは、人類の父祖アダムとエバが犯した罪が原因です。

### **ローマ 5 : 12,18-21**

5:12 そういふわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

5:18 こういふわけで、ちょうどひとりの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとりの義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです。

5:19 すなわち、ちょうどひとりの方の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。

5:20 律法が入って来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。

5:21 それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。

要するに、処女が子を産むという事実が、イエス・キリストを信じるすべての人の罪の赦しを保証するのです。イエスは、罪のない、聖なる神の子です。赦しは、神の子イエスが私たちに代わって罰を受けてくださったから成立するわけです。イエスは、私たちの罪の罰のためにささげられた身代わりのいけにえでした。

### **コリント第二 5 : 21**

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。

処女が子を産まなかったら、私たちに罪の赦しはなかったでしょう。

これは、クリスチャン信仰の不可欠要素です。

新約聖書を開くと、神のみことばが成就した個所が見つかります。

### **ルカ 1 : 26-35**

1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤと名づけた。

1:28 御使いは、入って来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。」

1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。

1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」

1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」

### 3. クリスマスに生まれた赤ちゃんの働きと権威に関する預言 (イザヤ書 9 : 1-7)

イザヤは、処女から生まれてこの世に来るべき赤ちゃんについて、いくつか励みになるようなことを記しています。

マタイ 4 : 14-15 は、イエスの働きはイザヤ書 9 : 2 に記された預言の成就だったと語ります。

#### マタイ 4 : 12-16

4:12 ヨハネが捕らえられたと聞いてイエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。 4:13 そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まれた。ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である。 4:14 これは、預言者イザヤを通して言われた事が、成就するためであった。すなわち、 4:15 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。 4:16 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」

イザヤの預言は、人々の心の中のやみにいつか光が差すというものでした。その光は、クリスマスに生まれる神の御子イエスというかたちでやってくるのです。

この光が、人々を重荷から解放し、彼らの心に喜びと幸福をもたらしてくれると、預言は語ります。

また、お生まれになるべきこのお方は、世界を統治するという重荷を負うことができるお方だとも語ります。先日、各国首脳がアルゼンチンに集まって、世界貿易や諸問題について話し合いました。来年は大阪で開催されるそうです。

首脳たちは、イエスの助けと知恵と導きを求めて祈祷会を開くべきでした。この世の本当の支配者はイエスだからです。

また、このお方は、不思議な助言者、力ある神であられるとも語ります。

また、永遠の父、平和の君であられるとも語ります。

このお方は、公正さと正義によって治められます。ご自身の造られた民に仕えることを成し遂げようと熱心に求めておられるからです。

なんとというすばらしい預言でしょう。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書に記されたイエスの生涯の話は、イエスがこのすべてに当てはまることを証明してくれます。

### 4. イエスの降誕地に関する預言 (ミカ書 5 : 2)

預言者ミカは、神のさばきがくだされることを神の民に告げました。そして、未来の出来事について、励みとなる一節をそこに挿入しました。

これは、ユダヤ人の永遠の統治者がベツレヘムから出るという預言です。

この預言に登場するいくつかのフレーズによって、これがベツレヘムでお生まれになるイエスのご降誕を指していることがわかります。

2節の最後には、「その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」とあります。

これは、イエス・キリストが永遠のお方であることをあらわします。

イエス・キリストだけが永遠の存在です。生まれたことも造られたこともないお方だからです。

イエスは、とこしえの昔から存在しておられました。

実際には、クリスマスはイエスの生誕を祝うものではありません。正確には、イエスが赤ちゃんの姿をして地上に来てくださったことを祝っているのです。これを「受肉」と呼びます。

「受肉」とは、霊の存在である神が人の肉体を帯びてご自身を現されることです。（ヨハネ 8：42）

イエスは、とこしえの昔からおられました。

このお方は、天において父なる神と等しいお方です。（ヨハネ 5：18 参照）

これはなかなか難しい内容ですが、聖書はそう教えています。

イエスは人となって、赤ちゃんの姿でこの世に来られました。その目的はただひとつです。

それは、人類を罪の罰から救い出すことです。（ヨハネ 6：38）

これについては、来週詳しくお話ししましょう。

次に注目するのは、ベツレヘムという町です。

イエスがお生まれになる約 700 年前、この預言が語られた当時、ベツレヘムは人口 200-300 人ほどの小さな村でした。

土地開発が進み、住宅やホテルが建った今でも、そこは小さな町です。ここで大切なのは、この町の名まえです。

ベツレヘムというのは、「パンの家」という意味です。

### ヨハネ 6：45-51

6:45 預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる』と書かれていますが、父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。

6:46 だれも父を見た者はありません。ただ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。

6:47 まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。

6:48 わたしはいのちのパンです。

6:49 あなたがたの父祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。

6:50 しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。

6:51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」

イエスは、ご自身をいのちのパンと呼ばれました。ですから、イエスが「パンの家」と呼ばれた町でお生まれになるのはふさわしいことです。

### まとめ

今日は、イエス・キリストのご降誕、つまり受肉についてあらかじめ語った聖書箇所を 4 つ学びました。受肉とは、霊の存在であるきよい神が人になられることです。

このことが起こる約 1,600 年前に、ヤコブは息子たちに最期の言葉を残しました。その中で、救い主が来られるまで、イスラエルの統治者は絶えないと語りました。

これは、歴史上、実際に起こったことです。

また、イエスのご降誕の性質についても学びました。神の御子が処女から奇跡を介してお生まれになるのです。

もうひとつの預言は、王なるイエスの統治についてでした。

これは、物理的支配ではなく、霊的な支配と統治についてです。

イエスは今も、人類の歴史を支配する統治者として治めておられます。

最後に、イエスの降誕地について学びました。パンの家という名のベツレヘムが、天からくだった生けるパンだと名乗るお方の来臨を見ることになる、という預言でした。

では、現代の私たちに適用できることはなんでしょう。

1. 神のみことばは、すべてにおいて **100%** 正確で真実です。ですから、私たちは今の人生についても、未来についても、生ける神のみことばを信頼することができます。
2. イエスの一度目の来臨に関する神のみことばは実現しました。同じように、イエスの再臨についても実現します。私たちは、イエスの再臨を期待して待ち望みたいものです。これは、クリスチャンだけが喜べることです。そうでない人たちにとっては、恐ろしい出来事になるでしょう。

### **ルカ 21 : 5-28**

21:5 宮がすばらしい石や奉納物で飾ってあると話していた人々があった。するとイエスはこう言われた。 21:6 「あなたがたの見ているこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」 21:7 彼らは、イエスに質問して言った。「先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょうか。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょうか。」 21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私がそれだ』とか『時は近づいた』とか言います。そんな人々のあとについて行ってはなりません。 21:9 戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません。」 21:10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、 21:11 大地震があり、方々に疫病やききんが起り、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現れます。 21:12 しかし、これらのすべてのことの前には、人々はあなたがたを捕らえて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。 21:13 それはあなたがたのあかしをする機会となります。 21:14 それで、どう弁明するかは、あらかじめ考えないことに、心を定めておきなさい。 21:15 どんな反対者も、反論もできず、反証もできないようなことばと知恵を、わたしがあなたがたに与えます。 21:16 しかしあなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにまで裏切られます。中には殺される者もあり、 21:17 わたしの名のために、みなの方に憎まれます。 21:18 しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。 21:19 あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。 21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。 21:21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都に入ってはいけません。 21:22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。 21:23 その日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。 21:24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。 21:25 そして、日と月と星には、前兆が現れ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、 21:26 人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。 21:27 そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。 21:28 これらのことが起り始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです。」